

学校だより
「みなみっ子特別号～平成27年度 学校評価総括表 伊丹市立南小学校～」 平成28年3月25日

教育目標		『強い体にきれいな心』・温かく生き生きと学べる落ち着いたきれいな学校 ・めあてを立てて最後までやりぬく広い心とやさしい気持ちを持つ子 ・教えるプロとしての自覚を持ち資質を向上させる教職員						
重点目標		①基礎基本の定着を図る②ことばの教育を推進する③たのしい英語学習を進める④自他の人格を尊び、思い合う心を育成する⑤自然体験、社会体験、勤労体験などを通して、社会性や倫理観などを身につける⑥気づき合い、認め合い、喜び合う学習を創造する⑦自己の体位、体力を自覚し、心身共に健康な生活を目指す力を育成する⑧基本的な生活習慣の定着を図る⑨食育を推進する						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
学力の向上	基礎・基本の徹底と授業改善	・基礎的、基本的な知識・技術を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究を実施する。 ・漢字の小テスト、算数の振り返りテストを定期的を実施する。単元ごとの振り返りテストも実施する。 ・校内研修として全ての教員が1回以上授業を公開する。	・漢字の小テスト、算数の振り返りテストの正答率が平均90%以上になる。 ・全ての教員が年1回以上授業を公開する。 ・「授業がわかりやすくて楽しい」と回答した割合が85%以上になる。 ・「先生は、教え方に工夫している」と回答した割合が85%以上になる。	B	校内研究で外部講師を招聘するなどして、授業分析や助言を頂いた授業研究に取り組むことで、教師の授業力改善も見られた。4. 5. 6年児童アンケートでは、「授業がわかりやすい」が80%、「先生は教え方に工夫している」が90%である。漢字テストを取り組むことで成果も上げているが、算数の振り返りテストの実施はまだ不十分である。しかし、スマー教室の取り組みによる成果もある。また、行事も多く、ゆとりを持って児童と向き合う時間が確保できないこともある。	今後さらに、研究授業などを通して、研究を深める。来年度は3力年のまとめとしての研究発表会も目標として更に学年、学校全体での取り組みを深めていく。年度末評価で更に行事の精選を行い来年度に向けて改善していく。算数の振り返りテストなど、学年ごとに児童の実態に応じて工夫して取り組んでいく。	○今後とも授業公開を積極的に行い、教職員間で力量を高めてもらいたい。	
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。	・単元の中で、作文・意見文の指導をしたり、説明的文章を要約する学習(字数制限)を行う。 ・単元の中で1～3回、仲間の意見を聞いて新たな考えが生まれるような話し合い学習を組む。 ・「本を読もうカード」を活用し、読書意欲を高める。 ・学期に1度、音読交流会を兄弟学級で行い、表現力を高める。	・学力テストの国語の記述問題において、無答率が20%以下になる。 ・書き込みシートや授業の振り返りの記述に、考えの深まりが見られる。 ・1ヶ月の読書目標数平均10冊を達成する。 ・表現読みが十分できるようになる。	B	研究テーマ「伝える・つながる・高め合う学び」(自ら表現し、深め合える授業づくり)を実践していく中で、子どもたち同士の話し合いによる交流も深まってきている。「本を読もうカード」は全校での取り組みの結果、読書量も月平均12冊以上となっている。しかし、保護者アンケートでは「すすんで読書しようとしている」の割合があまり高くないので、今後とも更に進めていく必要がある。	研究授業を通して、更に教材研究、教材開発に取り組む。特に子ども同士の話し合いが深まり、交流を通して自分の考えが広がるように工夫していく。また、学校での読書だけでなく家庭での読書に対する啓発も取り組んでいく。	○具体的施策が記載されている。仲間の意見を聞いて新たな考え方が生まれるような話し合い学習を着実に進めてもらいたい。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・各教科の単元ごとに、電子黒板や実物投影機等を使った授業を行う。 ・家庭で学習する時間が、低学年30分、中学年60分、高学年90分になるよう、課題を与えたり、自主的な学習ができるよう指導する。	・単元終了後のアンケート、感想等を取り、「よくわかった」が80%以上になる。 ・家庭学習で、低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。	C	家庭学習で、低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間の達成は高学年がやはり厳しい。電子黒板は、各教科で必要に応じて使うようになってきている。ただ、学年に1台という制約があるため、十分利用できていないとも言える。家庭学習については、読書も含め、学校から各家庭に啓発を進めるとともに、児童への宿題や自主学習の指導を進めていく必要がある。	教師の教材研究をさらに進めていく。家庭学習については、読書も含め、学校から各家庭に学校便りや懇談会などで啓発を進めるとともに、児童への宿題や自主学習など(特に高学年)の指導も今後進めていく必要がある。	○各クラスごとに一台ずつ電子黒板を配備するなど、ICT機器導入の整備を早急に。 ○学年ごとに能力別プリントを作成して利用する機会を多くとる。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育	・「心の教育」を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心、自尊心を育む。 ・「心のノート」「心シリーズ」「伊丹っ子ルールブック」等を活用し、「生命の尊重」「思いやる心」「自尊心」を重点化した授業を行う。また、小中連携した規範意識を高める道徳教育の取り組みを行う。 ・「心シリーズ」については、本を学期に1度、持ち帰り、保護者の感想を書いてもらうなどして、家庭との連携を深める。	・「自分を大切にしたり、相手の気持ちを考えて行動したりしている」と回答した割合が85%以上になる。	B	人権参観や道徳の授業を通して、人権について学んだり、考えたりすることができた。小中連携による道徳教育の取り組みも成果があった。今後も児童の実態に即したカリキュラム作りの検討を進める必要がある。	人権参観や道徳の授業を通しての教材研究を学年、学校全体として深めていく。また、人権教育部と連携して、カリキュラムを検討、作成する。	○児童が体験する機会や感動する場面をより多く設ける。 ○今後とも小中連携を進め、地域と協力してオール南小地区として規範意識を醸成していく。	
	体力の向上	・「早寝・早起き・朝ご飯」を実践する児童を育てる。 ・日常的に運動する習慣をつける。	・保護者に呼びかけたり、児童への啓発活動を継続して進める。 ・PTAと連携して「みなみんピック」を行う。	・「早寝・早起き・朝ご飯」を実践している」と回答した割合が85%以上になる。 ・日常的に運動しようとする意欲が高まる。	C	「早寝・早起き・朝ご飯」については、保護者は86%、児童72%と差がある。児童の中でも5・6年生66%、4年生87%。高学年の生活の乱れを感じる。みなみんピック、ハッスルタイム等で日常的に運動しようという意欲は高まってきているが、更に取り組んでいく必要がある。	「早寝・早起き・朝ご飯」については、家庭への啓発を今後とも進めていく。特に低学年から高学年への意識の変化という課題もあるが、これまで通り、児童や保護者へその必要性を伝えていく。	○家庭の協力体制が必要であり、根気強く取り組むことが大切。 ○強い体力を作るためには、朝ご飯はゆっくり食べる習慣が必要。そのことを家庭に伝えること。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを月1回以上発行。 ・学校HPを月1回以上更新し、情報を積極的に発信する。	・学校便りを月1回以上発行。 ・HPホームページを月1回以上更新。 ・保護者アンケートで「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上。 ・保護者アンケートにおいて「学校は保護者の願いに応じている」と回答した割合が	B	保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の割合は90%以上、「学校は保護者の願いに応じている」の割合も90%以上を達成している。学校便り・学年便り・HPの更新等を頻繁に行うことで、各家庭との連携が図られたと考えられる。	今後ともPTA、地域と協力しつつ、情報を発信し続けていく必要がある。	○目標は達成できているので、評価は「A」良いと思う。
安心・安全な学校作り	子どもの安全対策の推進	・避難訓練等を通して、児童に危機対応能力を育ませる。	・火災、地震等の避難訓練(事前事後学習も含め)を実施する。 ・CAP等の学習を進める。	・日常生活の中で起こりうる、災害・犯罪等に対する心構えができる。	A	防災の避難訓練、自転車教室、CAPの研修等を年間を通して、計画的に進め、緊急時に備えることができた。しかし、児童の防災意識をもっと高める必要がある。	保健などの教科とも関連させて、自ら命を守る方法を今後ともさらに指導していく。	○安全点検と修理箇所は早急に対応すること。校外は、今後とも地域の方の協力を得ること。 ○防災面だけでなく、不審者の侵入に対しても今以上に訓練が必要ではないか。

学校関係者評価総括

- 評価表には表れていないが、HPや学校だよりを拝見すると、着実に教育目標に向かって努力されていることがうかがえる。次世代の担い手を着実に育ててほしい。
- 改善策の具体的取り組みがわかりづらい。
- 学力向上のためには、まず強い体づくりが必要。さらなる体力向上を求める。
- 保護者の意見に左右されることなく、教育方針、目標をしっかり持ち学校は強い意志で子どもたちを導いてほしい。

次年度に向けた重点的な改善点

- 今後求められる力を育成していくためにもeラーニングの導入や活用を進める。
- 今後とも幼小中連携を進めていき、子どもたちの規範意識を育成していく。
- 体育の授業改善やPTAのみなみんピックを進め、さらなる体力向上を目指す。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った